

## 2012年度 選考結果

### ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援は、ヘルスケアの視点を重視したより良い社会への寄与を目的として、心とからだのヘルスケアの分野で活躍が期待される市民活動・市民研究を応援する助成プログラムです。

第12回となる本年度は、新規助成として、全国から225件のご応募を頂き、そのうち8件（助成総額1,500万円）が、また、継続助成として8件（助成総額1,500万円）が、それぞれの選考委員会による慎重な選考の結果、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

#### ■ プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること。
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること。

#### ■ プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業（医薬品の提供や医療）だけでは賅えないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること。
- (2) 政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源の十分に整っていない分野の市民活動・市民研究を重点的に支援していること。
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの独創性・試行性に評価の重点を置いていること。
- (4) 単年だけではなく、最長3年間の継続した支援も行なっていること。
- (5) プロジェクトに携わる人の人件費や、事務所家賃・光熱費などの事務局経費も助成すること。
- (6) 助成先団体の情報交換の場を提供していること。
- (7) 市民活動の社会的認知の向上を目的とした広報活動も行なっていること。

#### ■ 重点課題

- (1) 中堅世代の人々（主に30・40・50歳代）の心身のケアに関する課題。
- (2) 心身のケアが得ることが困難な人々の健康の保障に関する課題。
- (3) 上記各課題の解決に関連したヘルスケアを重視した社会の実現に関する課題。

#### ■ 選考委員会

##### 〈新規助成〉

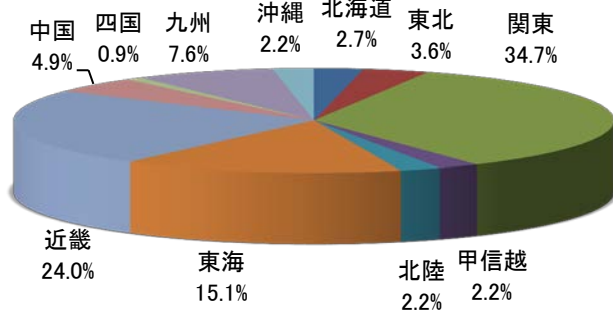
|     |       |                           |
|-----|-------|---------------------------|
| 委員長 | 武井 秀夫 | 千葉大学 文学部 教授               |
| 委員  | 安藤 雄太 | 東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー  |
| 委員  | 常田 秀子 | 和光大学 現代人間学部 准教授           |
| 委員  | 松下 典子 | 特定非営利活動法人地域福祉サポートちた 前代表理事 |
| 委員  | 豊沢 泰人 | ファイザー株式会社 執行役員 経営政策管理本部長  |

##### 〈継続助成〉

|     |       |                          |
|-----|-------|--------------------------|
| 委員長 | 田辺 功  | 医療ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員      |
| 委員  | 安藤 雄太 | 東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー |
| 委員  | 常田 秀子 | 和光大学 現代人間学部 准教授          |
| 委員  | 永井 美佳 | 大阪ボランティア協会 事務局次長         |
| 委員  | 豊沢 泰人 | ファイザー株式会社 執行役員 経営政策管理本部長 |

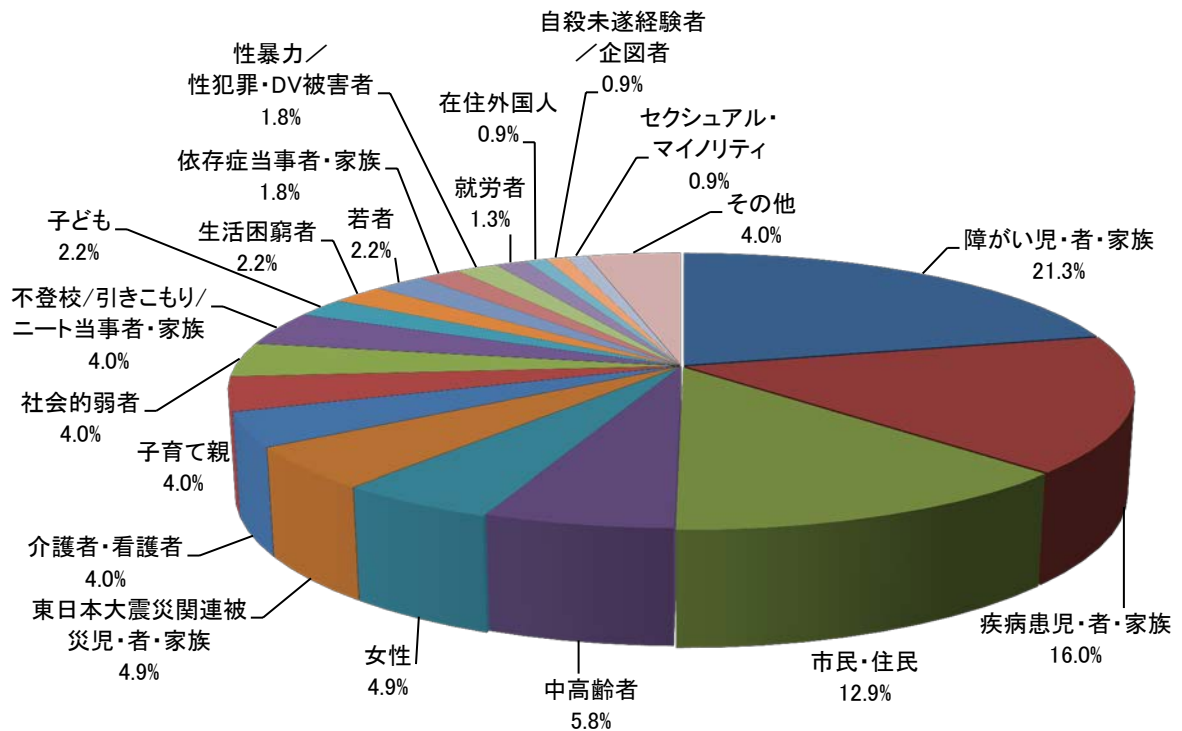
2012 年度 新規助成応募状況

1. 団体所在地



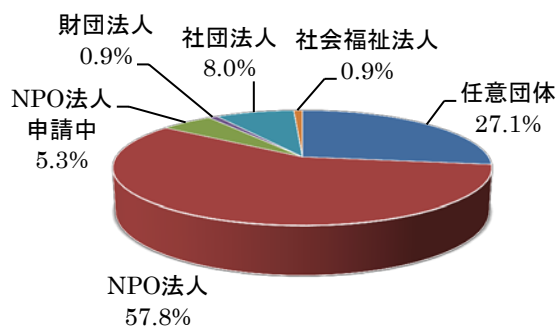
| 都道府県 | 団体数  |     | 都道府県 | 団体数  |     |   |
|------|------|-----|------|------|-----|---|
|      | 都道府県 | 団体数 |      | 都道府県 | 団体数 |   |
| 北海道  | 北海道  | 6   | 近畿   | 三重   | 5   |   |
| 東北   | 青森   | 1   |      | 滋賀   | 4   |   |
|      | 岩手   | 2   |      | 京都   | 5   |   |
|      | 宮城   | 5   |      | 大阪   | 26  |   |
|      | 秋田   | 0   |      | 兵庫   | 11  |   |
|      | 山形   | 0   |      | 奈良   | 1   |   |
| 関東   | 福島   | 0   | 和歌山  | 2    |     |   |
|      | 茨城   | 2   | 中国   | 鳥取   | 2   |   |
|      | 栃木   | 2   |      | 島根   | 3   |   |
|      | 群馬   | 0   |      | 岡山   | 5   |   |
|      | 埼玉   | 7   |      | 広島   | 1   |   |
|      | 千葉   | 4   |      | 山口   | 0   |   |
|      | 甲信越  | 東京  | 53   | 徳島   | 0   |   |
|      |      | 神奈川 | 10   | 四国   | 香川  | 1 |
|      |      | 新潟  | 3    |      | 愛媛  | 0 |
|      |      | 山梨  | 1    | 九州   | 高知  | 1 |
| 長野   |      | 1   | 福岡   |      | 8   |   |
| 北陸   | 富山   | 2   | 佐賀   |      | 1   |   |
|      | 石川   | 1   | 長崎   |      | 2   |   |
|      | 福井   | 2   | 熊本   |      | 1   |   |
| 東海   | 岐阜   | 4   | 大分   | 0    |     |   |
|      | 静岡   | 8   | 宮崎   | 1    |     |   |
|      | 愛知   | 22  | 鹿児島  | 4    |     |   |
|      | 沖縄   |     | 沖縄   | 5    | 5   |   |
|      | 計    |     | 計    | 225  | 225 |   |

2. 支援対象の分類

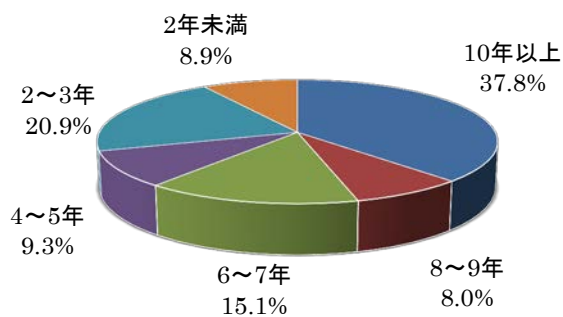


### 3. 組織形態

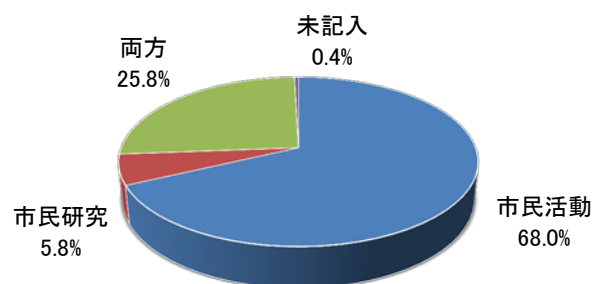
#### ○法人種類



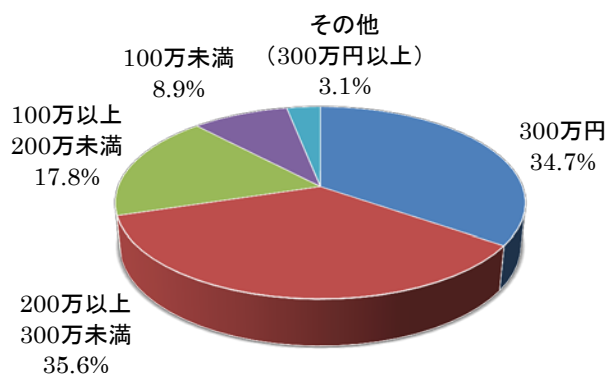
#### ○活動年数



### 4. 応募種別



### 5. 応募金額



2012 年度助成対象プロジェクト一覧  
 ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援  
 －新規助成(助成1年目)－

| 活動                 | 研究 | プロジェクト名 | 団体名                                     | 代表者                          | 所在地   | 助成額<br>(万円)     |     |
|--------------------|----|---------|---|------------------------------|-------|-----------------|-----|
| 1                  | ○  | ○       | 精神障害者の多様なライフスタイルを支援するピア活動・共同居住の研究       | 特定非営利活動法人<br>SAN Net 青森      | 根本あや子 | 青森              | 122 |
| 2                  | ○  |         | 人身取引被害者のための相談・直接支援プロジェクト                | 特定非営利活動法人<br>ボラリスプロジェクトジャパン  | 藤原志帆子 | 千葉              | 238 |
| 3                  | ○  |         | もしも、子どもが犯罪被害にあったら～親と子どものためのワークショップ      | 認定特定非営利活動法人<br>全国被害者支援ネットワーク | 平井紀夫  | 東京              | 200 |
| 4                  | ○  |         | 中国帰国者に対する介護予防教室と地域ネットワーク形成              | 夕陽紅(シーヤンホン)の会                | 牧田幸文  | 京都              | 43  |
| 5                  | ○  | ○       | 生活困窮者をめぐる課題解決モデル構築のための双方向型支援プロジェクト      | 特定非営利活動法人<br>長居公園元気ネット       | 佐々木和晴 | 大阪              | 300 |
| 6                  | ○  |         | どんなに障害が重くとも！ヒトリポッチ<br>ジャナイプロジェクトin劇場型銭湯 | 特定非営利活動法人<br>月と風と            | 清田仁之  | 兵庫              | 197 |
| 7                  | ○  | ○       | 市民参加・協同による若者が緩やかに回復する場の創造を目指す実践研究事業     | 特定非営利活動法人<br>フリースペースふきのとう    | 山北真由美 | 長崎              | 200 |
| 8                  | ○  |         | 臨床美術によるメンタルヘルスケア事業                      | 特定非営利活動法人<br>沖縄県福祉ネットワーク協会   | 赤嶺徳仁  | 沖縄              | 200 |
| <b>助成総額[8件・合計]</b> |    |         |   |                              |       | <b>1,500 万円</b> |     |

(2012 年度の助成期間は、2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

2012 年度助成対象プロジェクト一覧  
 ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援  
 ―継続助成―

|              | 活動 | 研究 | プロジェクト名   | 団体名  | 代表者   | 所在地 | 助成額<br>(万円)     |
|--------------|----|----|---|--|-------|-----|-----------------|
| 《助成2年目》      |    |    |   |  |       |     |                 |
| 1            | ○  |    | どんまいネットみやぎ推進プロジェクト  | 特定非営利活動法人<br>ほっぷの森                               | 白木福次郎 | 宮城  | 200             |
| 2            | ○  |    | 薬物・アルコール依存症者の自立支援<br>および就労プログラム開発モデル事業                                      | 特定非営利活動法人<br>潮騒ジョブトレーニングセンター                     | 栗原豊   | 茨城  | 200             |
| 3            | ○  |    | セクシュアル・マイノリティのための支<br>援および支援者育成プロジェクト                                       | 特定非営利活動法人<br>共生社会をつくるセクシュアル・<br>マイノリティ支援全国ネットワーク | 原ミナ汰  | 東京  | 200             |
| 4            | ○  | ○  | 重複障害を持つ依存症回復者の地域<br>移行・就労に関する研究および報告②<br>～社会性相互作用の障がいを乗り越<br>えるためのプログラムの考察～ | 特定非営利活動法人<br>三重ダルク                               | 南川久美子 | 三重  | 150             |
| 5            | ○  |    | 釜ヶ崎における困難者の居場所づくり<br>といきがい事業 2013   | 特定非営利活動法人<br>こえとことばとこころの部屋                       | 山田假奈代 | 大阪  | 150             |
| 6            | ○  | ○  | 心と体を元気にする「アグリセラピー事<br>業」(2ndステップ)   | 特定非営利活動法人<br>オーガニックライフコラボレーショ<br>ン               | 福本裕子  | 兵庫  | 200             |
| 《助成3年目》      |    |    |   |  |       |     |                 |
| 7            | ○  |    | 「農業の力」でニート・ひきこもりの若者<br>を元気にするプロジェクト Ver3.0                                  | 山形県新規就農者ネットワーク                                   | 牧野聡   | 山形  | 100             |
| 8            |    | ○  | 性的虐待体験者の命を守る活動実践<br>編   | 特定非営利活動法人<br>女性ヘルプネットワーク                         | 楠本千恵子 | 福岡  | 300             |
| 助成総額〔8 件・合計〕 |    |    |   |  |       |     | <b>1,500 万円</b> |

(2012 年度の助成期間は、2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

## 新規助成の選考経過と助成の特徴

新規助成選考委員長 武井 秀夫

2007年度に「中堅世代の心身のケアに関する課題」、「ヘルスケアを重視した社会の実現に関する課題」を新たな重点課題として取り上げ、助成対象を市民研究にも広げて再開されたファイザープログラム第2期も、今年で6年目を迎える。新規助成には225件というたくさんの応募をいただいた。これをファイザープログラムへの期待の高さの表れと言い切ってしまうとよいのだが、応募されたプロジェクト案件の内容から窺うことのできる傾向には懸念を抱かせるものがあるように思われる。

ファイザープログラムの趣旨としては、先駆的、独創的で、社会的意義が大きい、未だ公的セクターなどからの助成を得にくい状況にある取り組みを、プロジェクトの社会的認知と自立に向けて支援していくこと、同時に、それぞれのプロジェクトが、課題への取り組みを通して多様な横のつながりを生み出していくことに大きな期待を懸けていたと理解している。そうした点から考えると、今年は「問題あり」と感じさせられる応募が多かったのである。過去に助成を受けた他団体の取り組みに類似した企画、横へのつながり、コミュニティへの広がり、展望をまったく欠いた企画、さらには、団体の定常活動と運営資金の補助が主体ではないかと判断される企画などがそれである。取り組みの社会的意義、必要性や、そうした取り組みに対する社会的な財源不足と不安定性を考えれば、たいへん心苦しいことではあるが、そうした企画は優先順位を下げさせていただいた。また、企画書に判断材料とするに十分な内容を欠いていたものも例年になく多かったのは残念である。

応募の内訳を概観すると、市民活動 68.0%、市民研究 5.8%、市民活動+市民研究 25.8%、未記入 0.4%であり、支援対象別に見ると、「障害関係」が 21.3%、「疾病関連」が 16.0%、「市民・住民」が 12.9%、「中高齢者」が 5.8%、「女性」4.9%、「東日本大震災関連」4.9%、「子育て中の親」4.0%、「介護関連」4.0%、「社会的弱者」4.0%、「引きこもり、ニート等」4.0%、その他 18.2%である。都道府県別に見ると、東京、大阪、愛知、兵庫、神奈川の上位5県で応募件数の54.2%を占め、応募団体のない県は8県であった。1件あたりの応募金額は、300万円が34.7%、200万円以上300万円未満35.6%、100万円以上200万円未満17.8%、100万円未満8.9%、300万円超3.1%であった。

助成対象プロジェクトの選考プロセスは、まず第1段階として外部選考委員2名とファイザー社担当者1名、市民社会創造ファンド担当者1名の計4名からなる「予備選考委員会」で、すべての応募書類を予備選考基準に沿って審査し、225件の案件から55件を本審査の対象として選出した。同時に、ファイザー社によるコンプライアンスチェックにより6件が助成不可となった。第2段階では外部選考委員3名、ファイザー社選考委員1名の計4名が、それぞれ49件すべてについて評価を行い、選考基準に則って推薦7件、準推薦3件を選出した。第3段階として、9

月 22 日に「本選考委員会（本審査）」が開催され、推薦または準推薦のなかった案件も含めて 1 件 1 件について細かく評価し、最終的に 8 件の助成候補プロジェクトが選定された。第 4 段階では、プログラム事務局が約 2 週間をかけて、選定された 8 件のプロジェクトについて、各団体にインタビューをさせていただき、最後に、事務局によるインタビュー報告を踏まえて、各助成対象プロジェクトに対する助成金額を決定した。その結果、今年度新規助成対象は 8 件で、助成総額は 1,500 万円となった。

今回の助成の特徴をいくつかあげると、市民活動＋市民研究のプロジェクトが 8 件中の 3 件（37.5%）に上ったこと、専門家の専門性を活かした活動への助成が 2 件採択されたことなどもあげられるが、特筆すべきことは、支援対象者の方々を横につなぐピア活動の枠を超えて、異なる問題を抱えた人々の間に生産的な関係の創出を試みる活動や、支援対象者と一般市民との間に自然な接触と交流の機会を作り出そうとする活動など、新しい発想で横のつながりを志向する企画が 3 件採択されたことである。いずれの企画も「健やかな社会の実現」という本プログラムの趣旨から見て重要な意義を有するものである。それぞれのプロジェクトの活動からどのような横のつながりが生まれてくるのか、期待して見守りたい。

<新規助成の選考日程および手続き>

選考は下記の日程および手続きにより実施されました。

【応募受付】 6月11日～29日（応募総数：225件）

↓

【予備審査および予備審査委員会】

↓

【本審査および選考委員会】

↓

【委員長決済・選考結果】 助成件数8件、助成総額1,500万円を決定。

\* 上記プロセスと並行して、ファイザー社内担当部署による、医薬品業界・社内規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施。

## 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

### 【新規助成】

- (1) プロジェクト名 : 精神障害者の多様なライフスタイルを支援するピア活動・共同居住の研究  
(市民活動・市民研究)
- 団 体 名 : 特定非営利活動法人 SAN Net 青森  
代 表 者 名 : 根本 あや子  
主な活動地域 : 青森県

さまざまなニーズが複合化する精神障害者が、地域で生活し続けるうえで必ずしも十分な制度や仕組みが存在しているわけではない。それだけに、精神障害を持つ家族がグループホームという小さな「家」に共同で住まうという本プロジェクトは、いくつかの市民研究的な要素が含まれている。

選考委員会においても、多様な生活スタイルが保証されることによる家族の回復効果や、他の家族と関わりを持つことによる精神障害者のピア活動への効果など、今後の治療や生活などを含めた住まい方について重要な提案になると期待する意見が多く出された。また、子どもたちが置かれている状況を踏まえると、地域、学校との関係を視野に入れた取り組みが重要になってくるものと思われるだけに、地域の中にどのような「家」を建てるのかが問われている。

精神障害者家族の支援付き居住のあり方の政策提案やピア活動の新たな可能性を提示するとともに、この活動が全国各地に広がる一歩となることを期待したい。

- (2) プロジェクト名 : 人身取引被害者のための相談・直接支援プロジェクト  
(市民活動)
- 団 体 名 : 特定非営利活動法人ポラリスプロジェクトジャパン  
代 表 者 名 : 藤原 志帆子  
主な活動地域 : 東京都

本団体は、2004年より、日本における人身取引と、子どもや女性への商業的な性的搾取を根絶することを目的に活動している団体である。

人身取引とは、暴力、脅迫、誘拐、詐欺などの強制的な手段により、子どもや女性といった弱い立場にある人々を別の国や場所に移動させ、売春や強制的な労働をさせて搾取することを指すが、一般的に被害者は外国人と捉えられがちである。本団体が2012年に行った意識調査でも、90%以上の人々が「人身取引」についての認知があるものの、80%余りの方は日本人が被害者となっていることを知らないという結果が出ている。しかし、人身取引事犯の検挙データ<sup>\*1</sup>では、数年前から被害者として日本人が含まれるようになってきており、また、団体が運営する電話・メール相談においても、人身取引にまで巻き込まれる子どもに関する相談が急増している状況にある。



我々の身近で起こっているかも知れない人身取引に対し、本プロジェクトが被害者の早期発見・早期救済に繋がるとともに、社会で取り組むべき喫緊の課題であるという啓発となるよう期待したい。

(※1 参考：警察庁 HP)

(3) プロジェクト名 : もしも、子どもが犯罪被害にあったら～親と子どものためのワークショップ  
(市民活動)

団体名 : 認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワーク

代表者名 : 平井 紀夫

主な活動地域 : 全国

本団体は、各都道府県で「被害者支援センター」を運営し、専門的知識を持った支援員による犯罪被害者への法的・心理的支援を提供している民間団体のネットワーク組織である。

近年、子どもが犯罪被害にあうことが増えていること、親の対応が子どもの被害回復に重要であることから、本プロジェクトでは、これまでの支援活動を通して得た支援のノウハウをもとに、「子どもが犯罪被害にあった時の適切な対応」を習得するワークショッププログラムを開発し、小学生および保護者に提供する。

子どもが犯罪被害に巻き込まれることは事前に予想できることではなく、子どもと保護者が万が一の場合について考える機会が提供されることは重要である。同時に、家族や地域のネットワークが弱体化している現在、このような試みを通して親子や地域のあり方自体が再考できることも、本プロジェクトの大きな意義であると考えられる。

(4) プロジェクト名 : 中国帰国者に対する介護予防教室と地域ネットワーク形成  
(市民活動)

団体名 : 夕陽紅(シーヤンホン)の会

代表者名 : 牧田 幸文

主な活動地域 : 京都府

中国帰国者 1 世は、現在高齢化を迎えつつあり、日本語の習得や日本文化への適応上の問題から地域で孤立しがちであり、老後の不安を抱えている。本団体は、中国帰国者が集住する京都市伏見区での高齢者生活調査から明らかになった課題と支援に対応するために設立された。

本プロジェクトは、帰国者 2 世、3 世に対して介護資格取得の機会を提供し、彼等が主体となって、1 世の言語や文化背景に配慮した介護予防教室を開催したり、地域に中国帰国者の現状を知らせることにより、近隣住民や介護職者、地域ボランティアなどとのネットワークを作ることを目指している。

帰国後 30 年を経て、人々から忘れられがちな中国帰国者に関わり、2 世、3 世に対する自立を促す取り組みを通して、彼等が 1 世に対して効果的な支援を行うという本プロジェクトは、当事者間の支援と自立を側面からサポートしながら、地域の支援ネットワークを構築するという意欲的かつ有効性が期待できる取り組みと言える。

(5) プロジェクト名 : 生活困窮者をめぐる課題解決モデル構築のための双方向型支援プロジェクト  
(市民活動・市民研究)

団 体 名 : 特定非営利活動法人長居公園元気ネット

代 表 者 名 : 佐々木 和晴

主な活動地域 : 大阪府

本プロジェクトは、野宿者の支援から始まった、地域の新たな課題への取り組みであるが、どの地域でも可能な課題解決のプロセスが見られる。生活困窮状態にある高齢者および無就業状態にある若者が、当たり前暮らしを営み、自立に必要な衣（医）食（職）住（居）の循環を、地域というフィールドで双方向に築き合い、それぞれが地域の役割や出番をもてる支援の場として考えられている。

生活困窮者に対する若者による体験的寄り添い活動は、人との信頼関係、心の不安など、個人の問題だけではなく社会や市民の問題として、また、人間関係の再編、仕事づくりとコミュニティーの再生といった新しい地域づくりを提示している。そこには、心身ともに健康で経済的に自立できる人としての支え合い、育ち合う地域包括ケアと新たな共同体創りの試みがある。

本団体の初心であるユニバーサルなまちづくりの視点を重ね、命の尊厳と多様な生き方が実証できるプロジェクトとして期待したい。

(6) プロジェクト名 : どんなに障害が重くとも！ヒトリボッチジャナイプロジェクト in 劇場型銭湯  
(市民活動)

団 体 名 : 特定非営利活動法人月と風と

代 表 者 名 : 清田 仁之

主な活動地域 : 兵庫県

障害を抱える当事者とその家族は、社会から孤立しがちであり、メンタルヘルスの側面からも問題を抱える傾向にある。本団体は、利用者の7割が、24時間の見守りを必要とする「超重度」の在宅重症心身障害者への障害福祉サービス事業を実施するNPOである。日々、利用者とその家族のニーズを丁寧に聞き取り、現行の福祉サービスだけでは解消されない利用者とその家族の「孤独」の問題に対処するため、「ヒトリボッチジャナイプロジェクト」と題し、創意工夫を凝らしたプログラムを実施してきた。

本プロジェクトは、従来の「ヒトリボッチジャナイプロジェクト」を街中の銭湯へと展開し、“お風呂サポーター”として参画する近所の住人たちとのコミュニケーションの機会をつくるという極めてシンプルな取り組みである。“裸の付き合い”は障害を抱える当事者とその家族、また、近所の銭湯好きなおじさん、おばさんたちの互いの心にどのような化学変化をもたらすのだろうか。町おこしにも繋がりそうな、今までにありそうでなかったユニークな取り組みに期待したい。

(7) プロジェクト名 : 市民参加・協同による若者が緩やかに回復する場の創造を目指す実践研究事業 (市民活動・市民研究)

団体名 : 特定非営利活動法人フリースペースふきのとう

代表者名 : 山北 眞由美

主な活動地域 : 長崎県

子どもたちは限られた環境で豊かさを育む一方、待ったなしに成長する子どもたちの環境は、急変する社会状況と日常の価値観の素地となっていく。子どもたちと大人とのギャップが複雑化してきていることは、目に見えない大きな課題である。

本団体は、これまで孤島を含む長崎県北地域で不登校・引きこもりの相談や社会参加への支援に努めてきており、今、“何とかしたい”と危機感を持った関係者間の連携は、この新しい課題の取り組み現場となる。多様な個々に寄り添う支援が必要であると同時に、限られた生活圏での支援の目指すところには自立と就労が欠かせない。

本プロジェクトには、10年後、20年後を見据えた地場産業のあり方、仕事づくり、働き方を提案できる地域づくりの可能性が見える。この活動や研究から、社会全体の大きな課題と連動した解決の道は必ず開けてくると考えられる。実態調査、アウトリーチ支援者の育成と共に、中長期戦略として人と地域資源をつなぎ、丁寧な実践を積み重ね、新しい地域を築く機会となることを期待したい。

(8) プロジェクト名 : 臨床美術によるメンタルヘルスケア事業  
(市民活動)

団体名 : 特定非営利活動法人沖縄県福祉ネットワーク協会

代表者名 : 赤嶺 徳仁

主な活動地域 : 沖縄県

本プロジェクトは、ダウン症児とその家族や精神障害者を対象に臨床美術を用いたメンタルヘルスケアプログラムとして既実践化された取り組みであるが、本助成では沖縄県内のさまざまな問題や障害を抱えた人たち、その家族や支援者にも対象を拡大し、年齢や障害を超えた深いコミュニケーションを実現し、地域の共生ネットワークを構築することを目指している。

今回の取り組みでは、従来の活動との違いを明確にするとともに、臨床美術というアートの効果性が、発達障害者や子どもたちの感性を育み、ビジネスマンのメンタルケアなど汎用性の高い取り組みとして実践的に明らかにされるものと考えている。また、臨床美術体験者や作品展示会による多くの参加者と理解者を広げるとともに、当事者たちの自信の獲得などミッションを明確にし、心の問題に対する「臨床美術」という新たな手法による取り組みと、沖縄という地域固有の課題へのアプローチに期待するところである。

それだけに、単なる体験的研修や展示会に終わるのではなく、本プロジェクトを通じて、教育・福祉・医療等の関係者・団体および行政機関、さらに地域の人たちを巻き込んだネットワークが実現されるよう期待したい。

## 継続助成案件の選考経過と助成の特徴

継続助成選考委員長 田辺 功

ファイザープログラムでは、助成を受けた団体に2年目、3年目の継続助成のチャンスがある。実際に活動してみると、見えなかった新たな観点や活動の必要性、問題点などが浮かび上がる。継続助成は団体や活動の質を一変させる可能性もある。

助成2年目に応募する団体は、活動半ばでの今年度の中間報告書を提出する。また、助成3年目に応募する団体は、前年度の完了報告書と今年度の中間報告書を提出する。選考委員はそれらにより、活動が順調であったかどうかを評価する。新規助成と大きく違うのは、団体代表者から活動報告と新年度のプロジェクト内容を口頭で発表してもらうプレゼンテーションの機会を設けていることだ。

本年の継続助成への応募は昨年と同数の19件だった。昨年と同様、本年も、応募の全団体にプレゼンテーションをしてもらうことにした。書面での感じと、実際に質疑応答を加えた後とは、ガラリと印象が変わることがよくある。継続助成の要はプレゼンテーションにあると思う。2日間にわたり、2年目の13団体、3年目の6団体、計19団体のプレゼンテーション後、選考委員が質問し、これらの内容を討議した。結果は2年目の6団体、3年目の2団体、計8団体の助成を決めた。金額は計1,500万円になる。

選考委員の関心分野や専門、さらには全委員共通の選考基準に加えて各委員独自の選考基準が違うことから、今回も評価は分かれる傾向があったが、助成3年目の6団体のうちでは2団体が際立って高い評価を得た。

「山形県新規就農ネットワーク」は、ニートや引きこもりの若者を農業に引き込む。昨年も高い評価を得た団体だが、今年も、具体的に「山形に行きたい」という若者の心をつかんだこと、農産物の販売に従事することにより、お客とのコミュニケーション能力の再生訓練が行われていることが評価された。次いで高い評価を得たのが「女性ヘルプネットワーク」だった。性的被害者が性産業で働く実態や課題を調査することから始まった活動だったが、年々充実し、支援体制作りにと発展している。3年目は最後の助成が受けられる機会であり、委員の質問は、助成がなくなった後、基盤をどう安定させ、将来につなげるかを問うものが目立った。

継続とならなかった4団体は、昨年ほどの高い評価が得られなかった。共通して言えるのは、2年目は1年目の活動の拡大・発展で良いとしても、3年目は質的な発展が求められることだ。地域社会への働きかけ、広域化、制度化、新規活動への挑戦などが考えられる。助成がある間だけの活動で終わってしまったのは、市民団体そのものの力をつけようという趣旨から言えば残念だ。

2年目の応募13団体は接戦で、最終判断は難しかった。そのなかで、アグリセラピーの「オーガニック・ライフ・コラボレーション」と薬物・アルコール依存症支援の「潮騒ジョブトレーニングセンター」は委員の支持がやや高かった。前者は増えるうつ病対策に農作業とカウンセリン

グを組み合わせたアグリセラピーを試みるものだが、2 企業との契約に成功し、その効果の検証もできている。後者は依存症の人たちの職業訓練・就労支援活動で、やはり農業を骨格としている。地域との協力体制もあることが評価につながった。

「共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク」はセクシュアル・マイノリティの人たちの電話相談を充実させるとともに、2 年目は対面支援に力を入れる詳細な計画が目についた。高次脳機能障害者支援の「ほっぷの森」は、仙台市で活動するが、震災後の影響で遅れていたハンドブックも立派にでき、次はピアサポーターの養成に取り組む。「三重ダルク」は、薬物依存者の 8 割に重複障害があり、そのままでは自立が困難な状況から、個々の社会性の向上を重視する。農業や園芸から一歩進め、弁当事業に挑戦している。大阪・釜ヶ崎に拠点を置く「こえとことばとこころの部屋」は 5 年間の活動で定着した感じだ。参加者同士の交流を進めたいとの方向は理解できる。

2 年目応募はほかに 7 団体があった。どの活動も有意義なのだが、支出目的が機材の購入費や旅費に偏っていた 2 団体には、委員の抵抗感が強かった。予算の限界もあり、減額させていただいた団体が多いが、決して活動を軽視した訳ではなく、1 団体でも多く助成したいとの考えから、ということを理解していただきたい。ファイザー社の貴重な資源がより有効に使われていくことに、私たち、選考委員会は大きな責任を持つが、正しい選択であったことを、みなさんの今後の活躍から実感できたらと願っている。

< 継続助成の選考日程および手続き >

選考は下記の日程および手続きにより実施されました。

【応募受付】 8月20日～31日（応募総数：19件）

↓

【選考委員会】 10月14日・21日（応募団体によるプレゼンテーション実施）

↓

【委員長決済・選考結果】 助成件数8件、助成総額1,500万円を決定。

\* 上記プロセスと並行して、ファイザー社内担当部署による、医薬品業界・社内規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施。

## 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

### 【継続助成 2 年目】

- (1) プロジェクト名 : どんまいネットみやぎ推進プロジェクト  
(市民活動)

団 体 名 : 特定非営利活動法人ほっぷの森  
代 表 者 名 : 白木 福次郎  
主 な 活 動 地 域 : 宮城県

高次脳機能障害への理解は、少しずつ広がりを見せてきたというものの、本人および家族等の苦悩は計り知れないといっても過言ではない。そうしたなか、助成 1 年目で宮城県内 7 圏域にネットワークが設立できたことは大きな成果であった。

助成 2 年目のプロジェクトでは、本人および家族を地域社会で支えていくためにも、双方が理解をしていくための仕組みとして、ピアサポーターの配置は必然のことと考えられ、そのための養成研修は大切な取り組みである。

なお、このピアサポーター養成講座が、どんまいネット交流会（家族交流会）の延長線上で開催される危惧も考えられ、サポーターに必要な専門性と人間性の育成にあたっては、交流会との区分などの工夫が重要なポイントになると思われる。

また、被災地という厳しい環境条件のなかで、本プロジェクトを着実に推進し、行政、関係機関および他団体との緊密な連携を期待したい。そして、この実践が全国に波及するモデルとなることを願っている。

- (2) プロジェクト名 : 薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発モデル事業  
(市民活動)

団 体 名 : 特定非営利活動法人潮騒ジョブトレーニングセンター  
代 表 者 名 : 栗原 豊  
主 な 活 動 地 域 : 茨城県

薬物やアルコール依存症者の回復のプロセスにおいて、職業を得て自立することは非常に重要であるにも関わらず、社会における依存症への理解は乏しく、依存症の既往歴を持つ者の雇用は厳しい。そのため、依存症者は支援施設内に留まらざるを得ないのが現状であり、社会復帰の道のりは遠のくばかりである。

本団体は、茨城県鹿島市において複合型依存症施設として、設立当初より一定の回復に達した依存症者の職業支援を手探りで行い、社会復帰への道を模索してきた。助成 1 年目では、より組織的な職業訓練、雇用場所の開拓、雇用環境の地域ネットワーク作りなどを発展させ、とりわけ農作業による就労支援活動に一定の成果をあげた。助成 2 年目では、開墾した農場の更なる整備と活用、施設園芸や販売への挑戦など農業関連事業を推進するとともに、職業訓練や就労支援が

体系化されたプログラムの開発を目指す。“生活保護受給者から納税者へ”の目標を一日でも早く達成できるようプロジェクトの成果に期待したい。

(3) プロジェクト名 : セクシュアル・マイノリティのための支援および支援者育成プロジェクト  
(市民活動)

団 体 名 : 特定非営利活動法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク (共生ネット)

代 表 者 名 : 原 ミナ汰

主な活動地域 : 東京都

セクシュアル・マイノリティ当事者がその人らしく生きようと願っても、まわりの無理解や偏見が根強くある社会では、不当な扱いや社会制度からの排除が起きやすい。本団体は、当事者、その家族や友人などが尊厳をもって、自律的に生きられる共生社会をめざして、2008年より各支援事業や啓発事業に取り組んできた。

同性愛指向や性別違和感、身体の性別が曖昧であること等にまつわる悩みを聴いたり、必要な情報を提供することは、心身の不調を改善し、生活の質(QOL)を向上させることにつながる。そういった思いから2010年に開始した無料電話相談事業を発展させるべく、助成1年目は、電話相談の内容から問題の可視化をねらい、対面支援におけるケアの質向上を図るとともに、研修テキストによって支援者の育成に取り組んだ。窓口寄せられる相談には、緊急保護を要するケースや面談、同行支援を要するケースもあることから、将来的にドロップイン・センター設立の必要性を実感している。助成2年目は、電話相談や対面支援事業に10代から20代前半の若者からの相談が増えるよう広報を工夫することに加え、支援者全国会議に取り組む計画である。

本団体の基幹事業となる電話相談と対面支援を継続・充実させるためには、経常的な活動経費の資金獲得が鍵となる。その方策についても検討し、活動がさらに発展することを期待したい。

(4) プロジェクト名 : 重複障害を持つ依存症回復者の地域移行・就労に関する研究および報告②  
～社会的相互作用の障がい乗り越えるためのプログラムの考察～  
(市民活動・市民研究)

団 体 名 : 特定非営利活動法人三重ダルク

代 表 者 名 : 南川 久美子

主な活動地域 : 三重県

本団体は、1999年より、薬物依存症者の身体的・心理的援助を行い、依存症からの回復を手助けし、自立に向けた支援をしてきた。助成1年目は、高齢化・過疎化が進む地域の果樹園などの農業や、漁業・林業などに参画することを通して、依存症回復者が地域で有用な役割を果たせるようになることを目指した。この取り組みは大きな成果があった半面、依存症者の中に社会的相互作用の障害を背景に持つ者がいることも浮き彫りになった。

助成2年目では、社会的相互作用の障害ゆえに、これまで本団体が用いてきた言語でのミーテ

ィングを中心とした回復プログラムがうまく機能しない依存症者に向けて、非言語的資料を用いたミーティングの手法などを開発することを目的としている。並行して、障害者自立支援法に基づくB型事業所を運営し、弁当や総菜の製造販売、配達などを行い、回復者がよりいっそう地域住民と関われるようになることを目指している。

従来、施設内に止まりがちだった薬物依存症回復者に対して、高齢化が進む地域住民と互恵的に関わることを促す取り組みは先駆的である。

(5) プロジェクト名 : 釜ヶ崎における困難者の居場所づくりといきがい事業 2013  
(市民活動)

団体名 : 特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋 (ココルーム)

代表者名 : 山田 假奈代

主な活動地域 : 大阪府

元野宿者は、住まいを得て、生活保護を受けることで路上を脱出したが、その多くは単身高齢者となり、人とのつながりが希薄化するという新たな状況を生み、いわゆる「無縁社会」がもたらす課題に直面するようになった。

本団体は、日雇い労働者の街で知られる「釜ヶ崎」において、2003年の設立当初より他の支援団体とも連携しながら、アートを中心とした表現活動を通して、誰もが共に生きることのできる社会の実現を探り、地域に根ざした活動を行ってきた。

助成1年目では、健康相談や生活相談、表現活動などのワークショップを定期的に行い、元野宿者の単身高齢者が人とつながる動線を計画した結果、悩みを抱えた周辺地域の若者や支援者たちも集まり、思いを共有できる場として、支援側スタッフにとっても貴重な機会となった。

人々の孤立化が進む日本社会、とりわけ釜ヶ崎のような地域社会では、居場所づくりや生きがいづくりとなる本プロジェクトは生きる上で必須の取り組みと言える。助成2年目の取り組みでも新たな成果を期待したい。

(6) プロジェクト名 : 心と体を元気にする「アグリセラピー事業」(2ndステップ)  
(市民活動・市民研究)

団体名 : 特定非営利活動法人オーガニックライフコラボレーション

代表者名 : 福本 裕子

主な活動地域 : 兵庫県

社会的に喫緊の課題となっているうつ病などの精神的病いへの対策として、助成1年目では「農」とカウンセリングを組み合わせた「アグリセラピー」プログラムを開発し、先駆的な取り組みとして評価した。助成2年目では、農によるリフレッシュプログラム、職場復帰プログラムとしての有効性を実証することを目的とし、企業向けプログラムである「レスト・フィールド・プログラム」を開発する。「農」を通して土や作物と触れることで、コミュニケーションや心身のリフレッシュが図れる効果に期待するところである。

なお、このプログラムの対象となる当事者および家族等の適確なニーズを把握し、プログラム



の実践を通じてその有効性が明らかにされることを期待するとともに、企業経営者側の一層の理解を深める工夫が必要と言える。更には、休耕地等の有効利用が図れるよう経済団体および農業団体などとの連携にも期待したい。

#### 【継続助成 3 年目】

- (7) プロジェクト名 : 「農業の力」でニート・ひきこもりの若者を元気にするプロジェクト ver3.0  
(市民活動)

団 体 名 : 山形県新規就農者ネットワーク

代 表 者 名 : 牧野 聡

主な活動地域 : 山形県

ニートや引きこもりの若者達の社会復帰の問題は、現代社会の大きな課題になっている。本団体は、東京から山形に移住し、そこで新たに農業を営み始めた就農者達による団体であり、地域で引きこもり青年支援を行っている「蔵王いこいの里」などの団体と連携しながら、農業の力を使って彼らを元気にするとともに、農業を職業選択の1つとして捉え、社会復帰につなぐことを目指している。

助成1年目、2年目では、「蔵王いこいの里」からの参加者を中心に、グランドカバープランツを栽培し、地域住民とともに植栽や交流を行ったり、食べられる農産物の生産および販売実習を行ったりしてきた。この間の活動を通して、本格的な就農に向けて進んでいる卒業生も現れた。

助成最終年では、農産物の生産と販売を本格的に行うと同時に、自主農園を開墾し、本格的な農業経営を進める予定である。農業を通して、引きこもりの青年と地域住民との相互関係を深めながら、地域に根付いた若者の自立を支援する試みとして、非常に高く評価できる。なお、活動の成果を報告書等の形で広く公開されることも期待したい。

- (8) プロジェクト名 : 性的虐待体験者の命を守る活動実践編  
(市民活動)

団 体 名 : 特定非営利活動法人女性ヘルプネットワーク

代 表 者 名 : 楠本 千恵子

主な活動地域 : 福岡県

本団体は 17 年間、暴力被害を受けた女性の支援や女性の人権が認められるための事業に取り組んできた。活動拠点となる北九州市は、性感染症罹患率<sup>\*1</sup>および 10 代の妊娠中絶率<sup>\*2</sup>が全国平均よりも高い状況にあるが、非行で保護された少女が性被害の問題に直面するケースもあり、彼女たちに対する適切な支援が極めて少なく課題となっている。

性的被害や性的傷つきの体験が、その後の生き方や性、異性との関係に影響を及ぼすという仮説はあったが、その実態を明らかにした調査はあまりない。そこで、本プロジェクトでは、助成 1 年目は性的虐待体験女性と性産業で働くこととの関係と支援ニーズを明らかにする調査を、また、助成 2 年目は当事者が望む支援と支援機関が行う実際の支援の「ずれ」を比較検討する調査を実

施した。この実態把握によって、性的虐待の体験をもつ少女たちが、自身に起きたことを被害と認め、身近なところに支援を求めやすい環境整備が必須であり、なおかつ、まわりの大人も少女たちのSOSをキャッチできる体制確立が急務だと実感した。

助成最終年では、顕在化したニーズに応えるべく、支援者育成研修、相談窓口の開設とウェブサイトによる情報提供、サポートグループの形成支援、少女の居場所づくりと一時保護施設の開設などの実践活動に取り組む。広がりつつある市民、専門職、行政などの支援の輪をさらに強くし、事業継続に向けた資金獲得の方策等も検討して、今後のさらなる発展を期待したい。

(<sup>\*1</sup>参考：感染症発生動向調査、<sup>\*2</sup>参考：衛生行政報告例)